

都市図における風俗表現の機能

金 貞我 (韓国 延世大学博物館 客員研究員 / COE共同研究員)

神奈川大学21世紀COEプログラムの研究課題の一つとして、東アジア編絵引の編纂があり、それと関連する中国の図像資料として、清代の乾隆24年(1759)に制作された徐揚筆「姑蘇繁華図」(瀋陽、遼寧省博物館所蔵)を取り上げ、検討を続けてきた。「姑蘇繁華図」は、蘇州府城の内外の景観や街並み、人々の生活の営みを迫真の筆致で描いており、18世紀における江南地方の生活文化を理解するうえで重要な資料として注目される。そして、朝鮮時代の風俗画を中心とする韓国編生活絵引の資料の中にも「姑蘇繁華図」のように、都市の風景と生活の様子を伝える都市図というべき一連の絵画資料がある。

客観的な景観の描写や豊富でかつ多様な風俗表現を特徴とする都市風俗図には一般的に記録的なイメージを求める傾向がある。実際に「姑蘇繁華図」の中には、歴史上の記録と一致する商工業に関連する老舗の看板や商号、建造物などが数多く登場するが、朝鮮時代の都市図にも歴史記録にみえる行事の様子が忠実に描かれている。確かに、極度に臨場感を高めることが期待される都市図には、他の絵画ジャンルとは異なる豊かな人間の営みがあり、その表現には迫真性を高めるべき画家の創意が散在する。

しかし、一見、現実感を増幅するような風俗表現の中には、特定の場所と結びついた行事や祭礼や耕織図、漁楽図などの伝統的な図柄、そして、ある人間の行為をもっとも説得的に表わす描写などが、「型」のように繰り返して引用されることがある。一つの例をあげると、「姑蘇繁華図」に描かれる四つ手網を引き上げる漁夫の姿は、典型的な漁楽図の図柄である(図1)。漁とその収穫を喜ぶ漁夫の生活を描いた漁楽図は、本来、自然の中で隠者の瞑想を画題としたもので、もっとも早い作例である五代南唐の趙幹作以降、持続的に絵画化された。しかし、この図様は「姑蘇繁華図」の中に風俗表現として転用され、また日本や朝鮮時代の絵画にも受け継がれている。いわば蓄積され

た図様のレパートリーが東アジアの時空を越え、風俗表現として再生される(図2~図4)。

規範性の強い耕織図や漁楽図など、明白なテーマをその裏に背負う図様が、主題を捨て、型として抜き出された風俗表現の共通点は、その「場」にふさわしい表現として活用されていることである。個々の図様は、画家の蓄積された図柄の語彙から適切に選び出され、観るものに生活の場面を表わす表現として演出される。それは、農作業の男、糸を紡ぐ女、網をかける漁夫、子供を背負う女性、荷を運ぶ男、水を汲む女など、より普遍的な生活の場面を豊かに表現する機能をもって転用される。現実を装って風俗表現の臨場感を高める演出が都市風俗図を構成する重要な要素の一つであり、その表現の裏には長い伝統をもつ図様の活用が機能していることを認識することが重要であろう。

このような表現から同時代の生活文化を読み取ることにはできるのだろうか。伝統の線上にある風俗表現が同時代の生活文化を伝えるものであるかどうかは、個々の図様が制作年代に照応するパリエーションであるという前提が重要であり、それは図様における受容と変容の過程、伝統と創造の構図の中で比較検討する作業を必要とする。



図1 清 徐揚「姑蘇繁華図」部分図
(蘇州市城建档案馆・遼寧省博物館編 『姑蘇繁華図』、文物出版社、北京、1999年)



図2 五代南唐 趙幹「江行初雪図」部分図
(『故宮藏画大系一』、国立故宮博物院、台北、1993年)



図3 明 倪端「捕魚図」部分図
(『故宮藏画大系一』、国立故宮博物院、台北、1993年)



図4 朝鮮時代 伝鄭世光「川獵」部分図
(『韓国絵画』、国立中央博物館、ソウル、1986/1977年)